



関西六大学野球連盟 会長 谷岡 一郎

天に恥じぬ生き方

令和7年度の関西六大学野球リーグは、秋の大会を迎えることになりました。日頃の皆様のご努力、ご尽力に感謝しつつ、一言ご挨拶申し上げます。

野球に限らず、スポーツの世界で少々恥ずかしい行動をする者たちがいます。これは私が責任を持つ大学の自戒も込めての話ですが、いろいろ見つめ直す良い機会かと感じます。教育機関が集まり、その一環としてのスポーツ・イベントである以上、正しい行いを指導していきたいと思います。

野球の世界に目を向けますと、メジャーリーグや日本のプロ野球から、多くのニュースが流れてきます。今年は長嶋茂雄氏が他界され、従三位が授与されたというニュースを見ました。長嶋選手の功績はすばらしいもので、否定するつもりはまったくありません。しかし私個人として、同期に立教大から南海に入団した杉浦忠投手の方がより強く印象に残っています。杉浦投手という人は、ずっと支援してくれた南海球団や鶴岡監督に恩義を感じ、どんなに他球団が好条件で誘っても自分の生きざまを曲げず、マウンド上に限らず人生の勝負から逃げなかった姿が儼に浮かびます。むろん人それぞれ誰を応援するも自由ですが、私は強い意志を貫く人により惹かれるのです。ここで言いたいのは、プレイヤーの皆さんには（そしてレギュラーであろうとなかろうと）将来自分の生きる哲学を持ち、次に続く人々から尊敬され、手本となるプレイヤーになってほしいということです。決して天に恥じぬ人間であって下さい。

幸いにして試合に出られた人は、その陰に多くの出られなかった人がいることを忘れてはなりません。また家族やコーチの方々をはじめ、多くの人々に支援されてきたことを決して忘れないように、常に感謝の気持ちを持ち続けてください。

この場をお借りして、ファンの方々、報道関係者、連盟関係の方々、そして各大学でこれまでチームを支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。関西六大学がますます発展しますように。



関西六大学野球連盟 理事長 森川 敏朗

「日本学生野球憲章」の理解と共有を！

本連盟の所属大学が日本学生野球憲章違反にあたる重大な不祥事を立て続けに起こしたことは周知のとおりです。本連盟はこの事案についてコンプライアンス委員会を開き審議した結果、当該大学に本連盟規約 第34条に則り2カ月の「対外試合自粛勧告」を発令しました。

本連盟は発足43年となりますが、本連盟規約 第34条を発令したのは初めてのことで、この度の不祥事案は如何に重大であるかを受け止めての措置となりました。

本連盟として所属6大学の先輩方が43年間にわたり積み上げてきた歴史と伝統がこの度の事案で崩れ落ちる思いがしました。また日頃、応援して下さっているファンの方々、ご支援ご協力を頂いている各団体、企業の方々に対する裏切り行為であると深く猛省する次第です。

敢えて今回このような寄稿にしたのは、もう一度学生野球のあり方、教育の一環である学生野球を改めて考える機会にしたいからです。日本学生野球憲章で謳われている内容を大学当局、指導者、部員等で共有し理解を深める機会を繰り返し設けることを切に望みます。そして関西六大学野球が生まれ変わった姿を球場内外でファンの方々に観て頂けるようにしたいと思います。

秋季リーグ戦の開幕にあたり選手諸君には、本連盟の「走る関六」を胸に刻み、学生野球らしくキビキビとした立ち振る舞いをグラウンドで見せてもらいたいと思います。

最後になりましたが、関西六大学野球ファンの皆様をはじめ、秋季リーグ戦開幕にあたり、ご協力をいただきました報道関係者、球場関係者、協力企業の皆様、ならびに各大学関係者の皆様に衷心より御礼申し上げますとともに、引き続きご支援と温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。